

皆様、おはようございます。受付番号2番、質問議員11番、堀口恵一。

件名「山中湖と丹沢湖の連携強化と観光ルート見直しを」。

現在、袋小路になっているがゆえに寂れる一方の丹沢湖であるが、令和2年3月24日、「世附地区森林整備推進協定」(山北町、県西地域県政総合センター、王子木材緑化株式会社、東京神奈川森林管理署)が行われ、森林共同施業団地内の路網整備も実施していくことになっている。このエリアは、県道729号山北山中湖線を含んでおり、この道から途中西南方向に分岐する道が山中湖小山線に合流する。この道は過去には通行可能であった時期もあり、丹沢湖から山中湖へ荒れ道ではあったが通行できていた。小山側の道路、山梨県側の道路を使って山中湖につながるわけであるが、現在、そちらの道はすばらしくよく整備されており、オリンピックロードレースコースの一部でもあり、観光道として、利用者にはよく認知されているところである。同時に林業者の木材搬出、間伐などが容易にできるようになっている。山北町と山中湖村の境にある三国峠付近では、富士山と山中湖を同時に写せる撮影スポットが点在しており、休日には観光客が必ず来ている場所である。

また、現在清水地区においては、新東名にスマートインターチェンジが計画されているが、県道76号、国道246号合流箇所渋滞が懸念され、対応策に苦慮している状況にあると聞いている。

そこで質問する。

1、地図で見ると、山中湖からは河口湖より丹沢湖のほうが近い。富士五湖に一番近い湖(人造湖)として、PRするなど何か山中湖との連携性を示し、丹沢湖の質の高い観光活性化を図ってはどうか。

2、県道729号山北山中湖線及び山中湖小山線に合流する分岐道を整備して「東京～新東名山北スマートインターチェンジ～丹沢湖～山中湖」のルートを観光道として確立すれば、新東名で来て丹沢湖を見てから山中湖、河口湖方面へ行く観光客がある程度見込めると思う。

また、丹沢湖に行った観光客が、次に国道246に戻るのではなく山中湖方面に行くことにより、その分県道76号、国道246号合流箇所の渋滞の緩和に役立つと思われる。今回の林道整備に重ねて観光道開設を考えてはどうか。または、将来の観光ルートを想定してショートカットするなどして林道整備をし

てはどうか。

3、今後の山北スマートインターチェンジ開設を考えると袋小路の丹沢湖では県道76号、国道246号合流箇所の渋滞緩和策は必要と思われるが、町での対応策はどう考えているか。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、堀口恵一議員から「山中湖と丹沢湖の連携強化と観光ルート見直しを」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「地図で見ると、山中湖からは河口湖より丹沢湖の方が近い。富士五湖に一番近い湖（人造湖）として、PRするなど何か山中湖との連携性を示し、丹沢湖の質の高い観光活性化を図ってはどうか。」

についてであります。山中湖は、丹沢湖の西方に位置しており、地図上の直線距離では、河口湖より丹沢湖に近いように見受けられます。しかしながら、山中湖と河口湖と違い、現状では山中湖と丹沢湖を最短で結ぶ一般車の通行が可能な道路はなく、交通のアクセスが悪いため、この2つの湖が連携した具体的な事業を実施することは困難であると考えております。

しかし、本町と山中湖村が参画する広域連携組織として、静岡県・山梨県・神奈川県の一部自治体が参加している富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議があり、この組織には、観光部会も設置されるなど、観光情報の共有を定期的に図っております。今後は、これらを通じて域内の交流を積極的に進めてまいります。

次に、2点目の御質問の「県道729号山北山中湖線及び山中湖小山線に合流する分岐道を整備して、『東京～新東名山北スマートインターチェンジ～丹沢湖～山中湖～』のルートを観光道として確立すれば新東名で来て、丹沢湖を見てから山中湖、河口湖方面へ行く観光客がある程度見込めると思う。また、丹沢湖に行った観光客が次に国道246号に戻るのではなく山中湖方面に行くことにより、その分県道76号国道246号合流箇所の渋滞の緩和に役立つと思われる。今回の林道整備に重ねて観光道開設を考えてはどうか。または、将来の観光ルートを意図してショートカットするなどして林道整備をしてはど

うか。」についてであります。今回、東京神奈川森林管理署で計画している新規林業専用道は、世附地区森林整備推進協定に基づく木材の搬出のためのものであり、作業道程度の規格であり、観光道としての一般開放に耐え得るものではありません。この林業専用道は協定範囲内の森林の中を整備するためのもので、山中湖に接道するような位置ではありません。また、山中湖方面へと続く水ノ木幹線林道についても一般開放されていないため、町では、東京神奈川森林管理署と慎重に協議をしていきたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「今後の山北スマートインターチェンジ開設を考えると袋小路の丹沢湖では県道76号、国道246号合流箇所の渋滞緩和策は必要と思われるが、町での対応策はどう考えているか」についてであります、（仮称）山北スマートインターチェンジが整備されることによって、観光交流人口の増加、企業活動の活性化など、広域的な地域活性化が期待されているため、町では、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想を策定するなど、土地利用の展開を図る環境を整え、令和5年度中の供用開始を待ち望んでいる状況であります。

（仮称）山北スマートインターチェンジへのアクセスについては、国道246号清水橋交差点から県道76号へ進入し、町道10号スマートインター線を通り、新東名高速道路のスマートインターチェンジへと向かうルートとなっており、新東名高速道路から降りた場合は、その逆のルートで国道へ向かうこととなります。

（仮称）山北スマートインターチェンジが整備された場合の交通量については、平成22年に実施した道路交通センサスを基に、令和12年の交通量を予測しております。

それによると、（仮称）山北スマートインターチェンジを利用する車両は、1日1,332台と予測され、その内訳は、高速道路に乗る車両が605台、降りる車両が727台となっており、国道方面に向かう車両のピーク時の通行量は、1時間当たり61台が見込まれております。

今回の御質問の清水橋交差点における渋滞対策については、ピーク時でも新東名高速道路から降りた車両が時間最大61台増加するとしておりますので、1分間に約1台の車両が増えることとなりますが、現状の交差点の交通量を

鑑みますと、それほど大きな渋滞が発生するとは考えにくい状況であります。

しかし、（仮称）山北スマートインターチェンジ供用開始後、渋滞が頻繁に発生し、近隣住民の生活に支障が生じるような状況となった場合には、国・県・警察等と、清水橋交差点形状の改善や、信号機の時間調整など、対策を協議してまいります。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 1 番の質問の関係ですけれども、現状の道の状態では困難ということですが、情動的に、今、結構交流というのはネット上では盛んでありまして、山中湖を見たときにこっちの情報も入ってくるような関係を持つということで、例えば、お土産の一部を相互に、一部だけ置かせてもらって交流するとか、あと、河口湖、忍野村、山中湖、丹沢湖のエリアのルートマップみたいな。ルートマップも、大概見ると神奈川県内収まっちゃうんで、どうしても、こっち側しか見えない地図しか見えてないんで、山中湖も含んだようなルートマップが何かあるとちょっとイメージが地理的につながってくるのかなという思いがあるんですけれども、そういったような、ちょっと情動的な発信的という考え方から連携進めるということはどうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 私のほうで1番目の質問の作業道ということの中では、とにかく位置的に非常に難しいと、また、その必要とか、そういったようなことが、かなり山中湖のほうへ向かうには難しいというふうに考えておりますので、そういったことを抜きに、やはり袋小路を解消をするということ自体については、私は何とかしなければいけないというふうには思っておりますけれども、観光ルートでいろいろなところを他の県とか市・町と協議するということについては、先ほども申し上げましたけれども、伊豆・箱根のそういったような協議会がございます。そういったような様々なところと協議をしながらやっていかなければ、現実的には難しいというふうにも思っておりますので、そういったことをぜひ理解していただいて、一番最良の方法を考えていきたいというふうに思っております。

議 長 堀口議員。

11 番 堀 口 2 番目の関係でありますけれども、今回、エリア協定というのは森林、林

道、要するに林業のためということで、今回、協定結んでやっているわけなんですけども、当然、観光道といえ、林道じゃ無理だということなんで、県道がやっぱり視野に入ってくると思うんですが、一応、県道が729号線山北山中湖線というのは認定道路で、実際にはつながってない道としてあるわけで、私もちょっと地図をよく見たら、県道729の地図で想定されている部分というのは、三国峠より100メートルぐらい標高が低い切り通しを通過しているような設定になっているようですので、昔、多分想定したと思うんですけれども、通りやすいということで、水ノ木から西へ抜けて山中湖というルートだったと思いますけども、現実には通っていないという状況は周知しております。それから、実際に現在通れている道というのは、水ノ木幹線林道のことで、浅瀬から水ノ木、そして小山町の県道にぶつかる明神峠までのルート、これが私も昔通ったことあるんですけれども、やっぱり浅瀬からちょうど西へ向かって途中から西北に、それで、また反対に今度、南西に下ってきてから明神峠につながると思うんですが、ちょっとルートがくねった形になってるんで、実際、そこを通るには効率がちょっと悪いことは確かなんですけども。

ちょっと、ここで提案なんですけれども、その観光道の設定として、水ノ木幹線林道の、要するに北に1回上がって下りて南で小山町の道につながるというところの北上している部分をショートカットしてつなげると、結構スムーズな道が想定されるんで、今後のことなんですけれども、ちょっと距離的なものを見ましたら、ちょうど今回エリアに入っている県道認定されている部分のちょうど浅瀬から西へ4キロぐらいまでのところがちょうど大体西に向かって、そこから4キロぐらい行ったところからちょうど水ノ木に向かってちょっと上がる形になっているんで、その4キロまでは確定しちゃってもいいんじゃないかと思うんですね。4キロの先をどうするかという話で、そのまま今の現道の水ノ木幹線道路を生かすのか、そこをちょっとショートカットしてつなげるかということということで、地図で見るとショートカットしたほうが簡単なんで、ちょっと私の想定では、いずれにしろ、今回のエリア協定というのは、きっかけというふうに考えてまして、この今回の範囲で何かやるというのは、なかなか難しいんだと思うんですけれども、最初の浅瀬から4キロ地点までの部分というのは、ほぼ西へ向かってますから、そこ

の部分だけでも、今現在、林野庁の管理になってるわけですが、その管理を県道管理に変えるという話が、今、持ち出せば持ち出せるんじゃないかなと思ってるんですね。ちょっと、一応、私の想定なんで申し訳ないんですけども。先ほど申しましたとおり、ルートの設定で浅瀬から4キロ西へ向かって、その先1.7キロショートカットして残り2.3キロ、計8キロで小山町の県道にぶつかる形になります。ですから、比較的少ない投資でつなげることはできるかなという認識がありまして、それを想定した場合に、進め方として、一遍にというのは、なかなか難しい話なんで、2段階で想定して、1段階では、今回、浅瀬から4キロ部分についてだけ協定エリアでもありますので、林野庁管理から県道管理に移してもらうような話を出して進めるということも考えられると思うんですね。そうすると何がいいかということ、林道にも非常にいい影響がありまして、木の搬出が非常に効率的になります。しかも、4キロの部分については、ほぼ沢伝いですから、ほぼ真っすぐなんですよ。実際に道はくねってますけども、そうすると真っすぐになると、極端なことをいえば。そういった状況がありますので、私が想定するのは、今回は、浅瀬から4キロの部分について、県道管理下に変えてしまう。そうすると、そこまでの一般の人が入った形での観光としても使えますし、将来的な話をしたらこっちつなげるよとかいう話もできると思うんですね。一応、その4キロの場所に止めておけば、いろいろ検討したら、やっぱり県道726号のそっちの切り通しのほうが標高も100メートル低いし通りやすいよという話で、そっちのほうが、この道路がよかったとしても、そこまで止めておけば、一応そっちになりましたで話も変えられると思うんですね。ですから、要するに県に申込む場合でも全体想定がないと話ができないと思うんで、今、私が必死にしてるんですけども、想定として、ルートが3通りぐらい考えられて、1つがもともとの県道729号線そのままを生かしちゃうという考え方で、もう一つは水ノ木幹線林道ですか、それをそのまま生かしちゃうという2つと、それに3つ目が、水ノ木幹線ルートの一部をショートカットして、ほぼ真っすぐ西へ向かってちょっと上がって小山の県道につなげるという、その3つが考えられると思うんで、一応、それを想定した場合でも、取りやすい1段階目の浅瀬から4キロの部分についてだけ県道認定に変えるような

話を進めていくということはどちらにとっても有利な話だと考えております。
ですから、今回の……。

議 長 堀口議員、質問を明確にお願いいたします。

11 番 堀 口 要するに、今回、林道のためのことをやっているんだということで話を限定的に終わらせてしまうのではなくて、浅瀬から4キロ西の部分について、県道管理に変えるような話について、どう考えるかと。

議 長 町長。

町 長 そもそも論ですけども、この質問の趣旨は、その林道を使って観光用に小山なり山中湖へ行けたらどうかという提案だというふうに思っておりますから、それに対してはそのようにそういった方法が取ればいいというふうには思いますけど、しかし、我々が考えるのは、少なくとも、それは林野庁さん、国にやっていただくか県にやっていただくか、そういうようなことを要望する以外にはあり得ないというふうに思っております。平成22年の台風で水ノ木林道が被災して、復旧するのに7年から8年かかっているわけですよ。予算額でも国の予算ですから、我々としてはできるだけ早くというような要望をしましたが、山北町で負えるような金額では全くないわけですよ。ですから、堀口議員がどういうふうにその辺のところを考えておられるのか、林道として、ぜひ整備してやってほしいという要望であれば、それはそれなりに受けれますけども、今のお話ですと、管理を山北町に移管してみたいなこともおっしゃいますし、そんなような意味にも取れますので、非常に町としては、現実的な話としては、また今回も台風10号がきますけども、やはり大雨の被災が一番大きそうな一帯でございますので、なかなか実際、観光用ルートとして使うには非常にリスクが高いというふうに思っておりますので、林道として当初の目的どおり、木材を搬出するための道として使うのが一番いいんじゃないかというふうには考えております。

議 長 副町長。

副 町 長 ただいま町長も申し上げましたけれども、丹沢湖から町では北に抜ける道、道志村に抜ける道、果たして、それが実現するのかどうかということで、町長が力を入れて、あらゆるところで発言して実現するような形で図っております。そして、山中湖に抜ける道は、かつては通れたということがあったん

ですが、これ以前に、私がいたとき、大きな人身事故があって、それから通れなくなったというふうに聞いています。危険な道です。

また、林道というのは、簡単に国から県に移管するというふうに言いましたけれども、県道というのは、底地の登記、しっかりやっているものです。林道というのは、ただ道が、材木を搬出するための林道ということになっております。私どもの考え、町長は今申し上げましたとおり、丹沢湖から山中湖に抜けるのが一番いいですよ。けれども、それが果たしてどうなのかということであらゆるところで関係機関に通じてやりますけれども、町ではそれはできません。ですから、いろんなところに要望するんですけども、簡単に物は言えない。やっぱり制度を知ってなきゃいけない。要するに、林道と県道の関係ができなければいけないというものもありますので、その辺は、今後とも研究を続けていって、その辺のところは実現できるように努力いたします。

議 長 堀口議員。

11 番 堀 口 町で整備するとかいう想定ではなくて、今回、エリア協定で県も国も業者もはいつてるわけですし、要するに、ちょうど話しやすいチャンスかなと思ったもんですから、この場で県のほうも林務課のほうでは入ってるわけですね。ただ、県の道路課のほうは入ってない状況だと思うので、ですから、同じ県が入っていますから、そういった意味で打診をすることはできるんだと思うんですね。こういったことの可能性があるのかとか。多分、県としてもここは抜けたほうが、非常にメリットが大きいと思うんですね、私が思うには。ですから、その辺も含めて。それから林業関係者からしても、その林道がきちんと整備されてれば、効率が非常にアップするという、要するに、結構いろいろ林業の木材の搬出コストを下げるといって一生懸命エリア協定でも書いてありましたけれども、そういうことも進めていくということが書いてありますし。ですから、その中で、ここは県道に移管したほうが効率がいいんじゃないかという話が出せるんじゃないでしょうか。

議 長 町長。

町 長 別に堀口議員のお考えですから、我々としては、尊重はいたしますけれども、現実的に林道、私もちょうど今回のところには、私の山林もありますんで何

回か通ったことはございますけど、大概鍵で閉鎖されていて、その鍵を借りて通るといふふうになりますけども、そういったような意味で、やはり、林道から県のほうに様々なことをお願いするということ自体は、その目的とあれが合致していれば可能だといふふうに思いますけども、一般車両を通すといふようなことになると、やはり危険性とかリスクとか管理という問題がどうしても生じてしまいますので、私としては、通常は災害時にそこが通行できるような、そういったようなことをまず真っ先にしていきたいといふふうに思っておりますので、その次の段階としてそういったことが可能である場合には、先には、今度は観光用として順番に利用できたらいいんじゃないかなといふふうには思っております。

議 長 堀口議員。

11 番 堀 口 本当に、その隣の小山町では、もともとは本当悪い道だったわけですけども、立派に県道にして通っておりまして、しかも、私、見に行ったらやっぱり木の搬出のためのエリアとか何か所かあって、あれだったら運び出しやすいなといふふうに見えたんですね。ですから、県道が入ったことによって、結果的に林業活動が活発になるとか有効になるということは十分考えられますので、何か別物といふふうに切らないで、ぜひそっちのほうで森林にとっても効率的なんだとかいふような見方ができるんじゃないかと思うんですけども、その辺も含めて、県の道路課のほうにもちょっと声をかけるということは難しいんでしょうか。

議 長 町長。

町 長 小山町さんの取組については、この間の大きな災害から国のほうの申請、そして、県の取組ということで、我々としてはびっくりするような予算を使って、何年計画でおやりになっています。私もそれを見ながら、何で静岡県にできるのに神奈川県でできないんだということで、何度とも国有林の復興については早くやってほしいといふようなことで、7年ぐらいかかってしまいましたけど、そういうような経過がございます。ですから、非常にこういう計画については、おっしゃるように国のほうの静岡県側さんのほうの考え方、そして、それを支える国のほうの林野庁の考えというのは、非常に参考にはなるといふふうに思いますけども、やはり、我々としてできるのは、国

や県にお願いするというようなことしかないというふうに思っておりますので、そういった意味では、これからもそういった件については、当然、要望していきたいというふうに思っております。

議 長 堀口議員、いかがですか。質問ございますか。

堀口議員。

11 番 堀 口 大枠で山中湖方面につなげるということ自体はやっていきたいと考えでよろしいのでしょうか。大枠でですね。

議 長 町長。

町 長 何回もやらせていただけてますけど、おっしゃるように、抜け道というんですか、いろいろな山中湖あるいは小山町、そして道志村もそうですけども、そういったようなものを国、県に要望していきたいということは、私もそのとおりでございます。

議 長 堀口議員、挙手願います。

堀口議員。

11 番 堀 口 堀口です。

とにかく有効性は大きいと思いますので、前向きに進めていただくことを願って、質問を終わりにいたします。